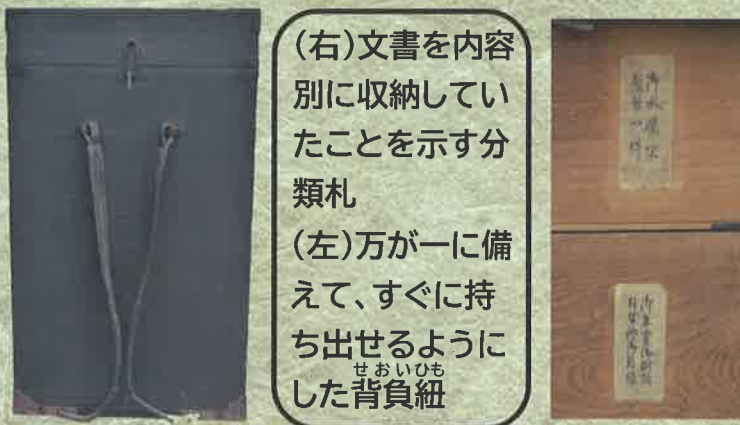


所蔵コレクションが織り成す高山三町の世界

令和五年度 春季特別展

三町を支え候

「町会所文書」から紐解く町年寄

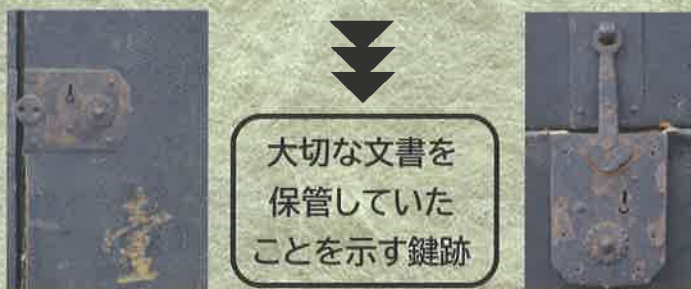


(右)文書を内容別に収納していたことを示す分類札

(左)万が一に備えて、すぐに持ち出せるようにした^{せおいひも}背負紐



町年寄が使用した多機能な文書保管用筆筒^{たんす}
燃えにくい革張りで火事への備えも万全



大切な文書を保管していたことを示す鍵跡



約330年前の^{げんろく}元禄年間に作成された「検地帳」
〔高山町会所文書〕の中で最も古い資料の一つ

令和5年 4月8日(土)～6月25日(日)

飛騨高山まちの博物館 特別展示室

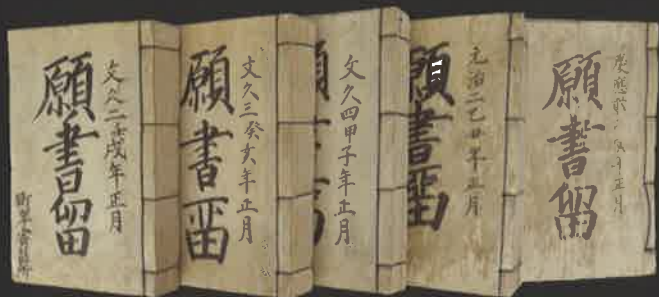
開館時間 午前9時～午後7時 主催 高山市教育委員会

三町を支え候

「町会所文書」から紐解く町年寄

慶長十九年（一六一四）、矢嶋茂右衛門宗成は金森可重ありしの意により町諸役の御免が許され、町代（町年寄）として認められました。その後川上氏と屋貝氏が町年寄に加わり、明治六年（一八七三）まで三家で高山三町（一之町村、二之町村、三之町村）の町政を支えてきました。彼らが業務の際にまとめた書類や日記、書状などは、時代の潮流にあわせながら町年寄宅や役場で保管され、現在は市指定文化財「高山町会所文書」として、当時の高山の政治社会や文化を知るうえで欠かせない資料です。

本展では、高山三町における町政と町年寄の業務、町年寄を務めた三家の家業などについて、「高山町会所文書」として遺された膨大な記録の一部と、関係資料で紹介いたします。



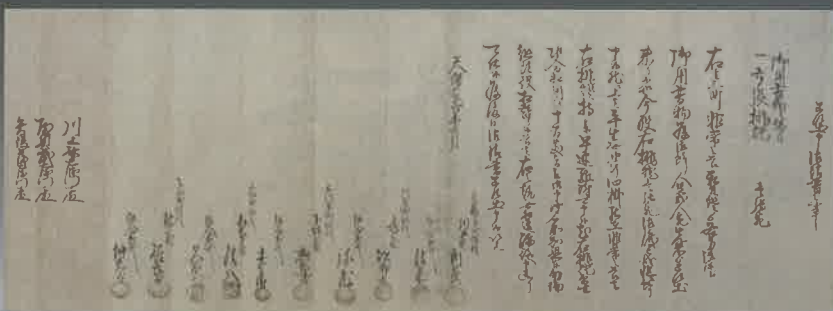
「高山町会所文書」の主要資料の一つで町人からの色々な要望が書きつづられた「願書留」



町年寄が日々の業務内容や、時に上役にお叱りを受けたこと、町の問題解決に奔走していたことなどを書き残した「日記」



多忙な町代になれば良いことも？矢嶋氏がさまざまな負担を免除されたことがわかる「諸役御免状」(慶長19年 1614)



火事の際、町会所文書を守るため町民も協力していたことがわかる「御用書物と認候挑燈相渡候請書入」(天保14年 1843)



高山陣屋へ行く時に町年寄の矢嶋氏が着用した正装「矢嶋家紋入り袴」

— 関連事業 —

◆記念講演会

日時:6月3日(土) 午後1時30分～午後3時
 場所:まちの博物館 研修室
 講師:渡辺浩一氏(人間文化研究機構国文学研究資料館 教授)
 申込:まちの博物館へ電話、FAX、メール、
 または右記申込フォームから申込
 申込期限:5月24日(水)



申込フォーム

◆ギャラリートーク

4月22日(土)、5月6日(土)、6月11日(日)
 時間:午後1時30分～(30分程度)
 申込:不要(直接特別会場までお越しください)
 当館学芸員が特別展の解説を行ないます。

飛騨高山まちの博物館

〒506-0844
 岐阜県高山市上一之町75番地
 TEL:0577-32-1205 FAX:0577-35-1970
 メール:machihaku@city.takayama.lg.jp

